

国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展

アイガス
IGAS2018

～近未来工場の兆し



7月26日～31日、東京お台場のビッグサイトにて

NEWS LETTER

遊文通信

2018年8月発行

85

IGAS が4年ぶりに開催されました。

IGAS とは international graphic arts show の略で、印刷関連では世界4大展示会の一つです。ドイツのドルッパを始めとするこれら国際展示会に照準を合わせて、サプライヤー各社が最先端の技術を競います。今後の印刷関連業界の潮流や設備投資の方向性を決めるにあたり必見の場。貴重な情報をさまざま収集してまいりました。

▶ 印刷業界の現状と向かう道

印刷技術のイノベーションは進化の一途を辿り、ここ10年でインターネットで全国から集めた仕事を最新鋭のIOTテクノロジーで自動処理し、スピーディかつローコストに印刷物を製造するビジネスモデルが急速に普及しました。それまでは製造工程の問題から、例えばチラシ1,000枚作るのに5万円かかっていたものが10分の1程度のコストに抑えられ、個人ユーザーなどへの印刷物製造のハードルがぐっと低くなりました。

そんな中で、印刷会社は次の二極に収れんしていかざるを得ないと思われます。①製造に徹する印刷会社は、極限まで工数を削減するために投資を含めた企業努力を惜まず、価格訴求で集客する。②そうでない印刷会社は、製造以外の強みでとんがった高付加価値・高単価で勝負する。どっちつかずでは経営が成り立たなくなるという局面に向かっています。

▶ IGAS で提示された未来図

①の観点からみた場合、今回のIGASのポイントは2点。「ワンストップサービスの促進」と「製造工程の無人化提案」でした。従来、分業制で成り立ってきた印刷産業ですが、製造拠点を集約して、横持ちの経費の圧縮・品質管理の徹底・短期納期化を進めないとお客様に選ばれなくなっていくと思います。またこれから一層雇用環境が厳しくなる中、付加価値の低い単純作業はロボットを投入し無人化していかないと長期的に見てコスト競争に勝てなくなると考えられます。これらに対応する「ワンストップ」、「無人化」の提案が多く見られました。



また反対に、②の観点からの製品の付加価値を高める展示も多く、プリントしたものにユニークな加工を施すソリューションが厚物・薄物とも目白押し。ただ、高付加価値は棚ボタ式には落ちて来ない。ヒントからの自助努力の困難を再認識しました。

▶ 遊文舎顧客サービスの深化

これらを踏まえ、自社の強みを吟味した上で設備の方向性を決めてゆかねばなりません。遊文舎は創業以来、出版印刷・書籍を得意としていますので、やはりロール紙タイプのインクジェットプリンターに気が行きました。「版」という概念のないデジタル印刷は合理的ですが、コスト面、品質面で導入が見送られてきました。しかし日本ほど品質要求が高くない欧米諸国ではもはや主流のテクノロジーです。中小企業の投資額としては数億単位と、かなり大きいのでここ数か月というわけには参りませんが、今後の弊社の投資の本丸とも言えると確信しました。

その導入が叶えば、より一層お客様に資する商品サービスの提供が可能になります。例えば、これまでコストやページ割りの関係で単色で印刷していた貴重な写真をほぼ同じコストでカラー刷りにしたり、後加工の関係で製造に1週間費やしていたページ物製品が3日で出荷できたり…と。

もちろん設備投資に頼らない高付加価値の創出をめざして、人材の先鋭化に日々怠りなく努めていくことが第一の肝だと痛感しています。

印刷産業は大きな変化の潮流の只中にまさに居る、それを改めて感じさせる展示会でした。

(代表取締役 木原庸裕)



株式会社 遊文舎

【大阪本社】〒532-0012 大阪市淀川区木川東4丁目17-31

TEL: 06-6304-9325(代) FAX: 06-6304-4995

【東京支店】〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2丁目20-7 水道橋西口会館 8F

TEL: 03-5357-1420 FAX: 03-5357-1421

<http://www.yubun.co.jp/>

E-mail info@yubun.co.jp

新入社員のご紹介

原稿整理や校正、ワークフローの管理、電話によるお客様との情報交換等、重要な部署を担います。遊文舎の大きな戦力になること間違いなし！
(おっくん)

鈴木 友紀 [営業事務]

Suzuki Yuki

出身 | 広島県広島市

趣味 | 旅行 & 食べ歩き

出身校 | 広島女学院大学 文学部英米文学科



●前職の経験

商社やメーカーにてトータル14年程、営業事務一筋！で働いてきました。営業スタッフを裏方として支えることが、一番のメイン業務であり、営業と連携してゴールに向かうことで、喜びや達成感を共に味わうことができました。事務職と言っても、ルーティンワークの部分が多く、かなり変化に富んでいる部類の職種だと実感しております。その変化を楽しみながら頭を使って仕事することを求められる点が、この営業事務の最大の魅力だと思っています。

●遊文舎での抱負

印刷業界は全くの未経験であり、先輩社員の皆様よりご指導頂き、只今、猛勉強の毎日です。まずは、仕事の流れをしっかりと把握し、ミスが許されない慎重さを求められる仕事である為、一つひとつ確実に業務を身に付け、諸先輩方が長年築き上げたお客様との信頼関係をしっかりと引継いでいきたいと思っています。遊文舎の成長を支える一員になり、皆様のご期待に応えられるよう、日々精進して参ります。

アプリをダウンロードして

下の写真にスマホをかざすと動画が見れます！



動画の見方



Download on the
App Store



GET IT ON
Google Play



1 AR 無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード

■ iOS の場合

「App Store」で「COCOAR2」と検索するか、QR コードからダウンロードしてください。
※互換性：iOS07.0以降、iPhone、iPod および iPod touch 対応。

■ AndroidOS の場合

「Google Play」で「COCOAR2」と検索するか、QR コードからダウンロードしてください。
※ Android 要件：4.0以上。

2 「COCOAR2」を起動し、対象画像にスマートフォンなどの携帯端末をかざす

無線綴機が 新しくなりました！



今回入ってきた新しい無線綴機と前回の無線綴機とでは下記の大きな違いがあります。

1 | セットの仕方

前回の無線綴機では手動で感覚にたよる部分（糊の量や束の幅など）がありました。なので、セットをする人によって仕上りに少し違いがありました。新しい無線綴機では、本の厚さを測るだけで、自動でセットしてくれるようになり、感覚にたよっていた部分が数値化されたために、誰がセットしても一定の仕上りを保つようになりました。

2 | 糊の違い

前回の無線綴機では背糊と横糊が同じ種類のものでしたが、新しい無線綴機では別の糊を使うため、ライン（製本時の糊の跡）が出にくくなり、よりきれいに仕上がるようになりました。

3 | メモリー登録機能つき

新しい無線綴機にはメモリー登録機能があり、定期的な仕事のセットのデータを登録できるようになり、簡単に登録したセットを使うことができるので、仕事を効率よくできるようになりました。

新しい無線綴機になり、品質・生産性が向上しました。

今後とも製本一同、より一層頑張っていきます。

(製本チーフ 和田直樹)



●無線綴じとは、製本方式の一つであり、糸・針金などを用いずに本の背を断裁して接着剤で接合して製本する綴じ方。

● 編集後記 ●

8月と言えば高校野球！甲子園ですね。高校球児ならではの全力プレーに目を惹かれます。甲子園シーズンの私の夜は、毎日かかさずテレビで熱闘甲子園を見て感動しています。

夏の暑さもまだ残っていますが、高校球児のように暑さに負けないよう日々全力で仕事に取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願いいたします。
(おっくん)

☑ 今月の紙 ☑

Mr.B スーパーホワイト

菊判 / 76.5kg